

双葉郡
子供未来会議



小学生も中学生も高校生も大人も、当事者として
双葉郡の教育復興に主体的に参画する
カフェ形式の対話の場



2014/6/11 発行

発行元: 子供未来会議cafe

これまでの双葉郡子供未来会議では、小学生から高校生や保護者・教職員が集まり、「これからの双葉郡の子供たちにとっての教育とは何だろう」といった問いかけに素直な想いを語り合いました。子供たちから、自分がさらに話したいテーマが多数提案され、保護者、大学生、教育関係者を交えて対話が進みました。終始笑い声が絶えず、子供と大人が真剣に楽しみながら意見交換をしました。

会議の中では、「夢を見つけるたくさんの『小さな窓』があることが大切である」「個性を伸ばす、楽しい学びのきっかけを大切にしたい」「机に縛られた勉強だけで無く、実際に体験をして実践していく『動く授業』といった学びが必要である」「世界とつながり、『さすが双葉、すばらしいぞ双葉』と思ってもらえる情報を発信していきたい」など、多くの意見が交換され、それらの意見をまとめて双葉郡教育復興ビジョン推進協議会へ提出しました。

引き続きこの双葉郡子供未来会議を開催し、新しく開校する双葉郡の学校の名前や部活動などを検討するため、多くの子供たちの意見を聞かせてください。双葉郡の教育について、一緒に考えていきましょう。ぜひ、参加ください！



【これまでの開催実績】

- 双葉郡子供会議 (3/31、福島市、児童生徒・保護者等約80名)
- 第一回 (9/23、いわき市、公募児童生徒・保護者等56名)
- 第二回 (10/13、会津若松市、公募児童生徒・保護者等85名)
- 第三回 (10/26、郡山市、公募児童生徒・保護者等59名)
- 子供未来会議第一期報告書検討会 (12/23、郡山市、代表生徒6名)
- 第四回 (1/13、いわき市、サテライト高校生徒教員等45名)
- 第五回 (1/24、郡山市、郡内教職員等77名)
- 第六回 (2/19、広野町、公募児童生徒・保護者等約77名)
- 第七回 (3/27、郡山市、公募児童生徒・保護者等約44名)

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会では、「福島県双葉郡教育復興ビジョン」の具現化に向かって、双葉郡の子供たちや保護者のみなさまの声をたくさん聞き、一緒に双葉の子供の未来について話し合いたいと考え、双葉郡子供未来会議を開催しております。

次回「新しい双葉郡の中高一貫校の校名や部活動・制服」をテーマに開催！

○日時：
平成26年7月6日（日）
13：00～17：00

※12：30～受付開始

○会場：榎葉町立榎葉小中学校
中央台仮設校舎体育館
(〒970-8044 福島県いわき市中央台飯野5丁目6-1)

○当日持ちもの：
筆記用具、飲み物等

○参加申込：
詳細は、福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局または各町村立教育委員会へお問い合わせください。ぜひお待ちしております！

※旅費も支給します。

双葉郡の教育復興に向けたこれまでの経緯

双葉地区8町村は、東日本大震災・原発事故の影響による大きな困難の中、日々教育活動を行っております。様々な事情の違いはあるものの、子供たちのケアの必要性や避難している子供たちと故郷との絆の維持など、いくつか共通する課題を抱えています。また、何よりも未来を担う子供たちのために、今こそ10年、20年先を見据えて精一杯双葉郡ならではの魅力的な教育を行うことが必要であるという認識で一致しております。

こうしたことから、双葉郡8町村の教育長で構成する双葉地区教育長会は、国、県、大学等の関係機関とともに双葉郡の未来を担う人物像や必要な力、魅力的な学校の姿や教育内容、避難している子供たちのために行うべき取組などについて検討を重ね、双葉郡の教育を立て直し、子供たちの夢をかなえるために、これまでの価値観にとらわれない思い切った取組を進めていくことを目指して、「双葉郡教育復興ビジョン」を取りまとめました。この「双葉郡教育復興ビジョン」を具現化するため、昨年11月より双葉郡教育復興ビジョン推進協議会を新たに立ち上げ、現在協議をしております。

また、全国各地で避難生活を送っている方も含めて、双葉郡の子供たちのためにお集まりいただき、率直な意見を語り合う機会を設けることとし、昨年3月より子供たちや保護者の対話の場「双葉郡子供未来会議」を開催しています。

今後は平成26年4月より「ふるさと創造学」として、ふるさとの伝統芸能や双葉郡のことを学校の中で考えていく授業もスタートしています。また、今年9月28日(日)には再会の場として、「ふたばワールド2014in川内村」に参加します。みんなで集まりわたしたちのふるさとを共に考える機会を作ろうと企画していますので、ぜひ参加してください。



双葉郡子供未来会議の様子



浪江町の「ふるさと浪江科」の学習の様子

子供たちの声

松本 莉奈 福島県立磐城高等学校2年
(檜葉町出身)

震災から三年が経とうとしている今、私達は震災に真正面から向かい合わなければなりません。そんな今、全てを原発のせいにしていて良いのでしょうか。文句を言うだけでは何にも始まりません。私達にできることが必ずあるはずです。

私は、これらの活動で出会った仲間たちと共に、困難を乗り越えてきました。皆が本気で動けば、わずかでも何かを変えられると私は確信しています。

双葉郡の未来を担う子供達に、このような経験をしてほしいです。未来の双葉郡のために、私たちの手で最高の学校をつくりましょう！！



横川 成美 福島県立会津学鳳高等学校3年
(大熊町出身)

私は双葉郡子供未来会議に初めて参加させていただいた時、周囲には知らない人ばかりでとても不安でした。しかし、同じ経験をしたということもあり、いつの間にか自分の気持ちを理解してくれる場になっていました。

こうして生み出された意見は私たち一人一人の本当の気持ちです。うまく伝えられているかわかりませんが、私たち双葉郡の子供たちが大きな翼を広げて羽ばたいていけるような土台を作ってほしいです。そして、「双葉郡といえばあの中高一貫校だよ」と胸を張って自慢できるものにしてほしいです。

時代は変わっていくもので、新しい考えが発見されていくものです。なので、焦らずに私たちと一緒に作っていきましょう。

